



中
 路
 い
 せ
 り
 丸
 所
 志
 跡
 夜
 話
 涼
 袋
 括

中村俊定文庫
 文庫 18
 293





お佐

涼信稿



沖寸月は口あはるまじき一即の多折は端々寄居
 の里志高きまはヤとすあ一雖多をちうまねの
 久一凡物は好ま止ま友に伊山あま魚園ち系
 ち一燕門は抱ぬいまりくほけに偷暇く
 沖の風はよらあれくははま其の付糸にうま
 一くも階はりてあかしくまんとちくち尺糸うるに
 ちあか今音ハ伊山のやあ一まし伊信の附さ

一
此向のむとく 一 難多を向ま母乃折下七名ハ新
乃仰ありヤ予答クサ 一 又向の折一はあまや
予曰くは尺おあまや 一 上条隨身く 一 為せ為の
海もあつて古今乃故あまや 一 ありく 一 あり
此乃凡あはたれんとや 一 教乃も改まされあま
つ 一 議論乃教公編も是し 一 あり 一 あり 一 あり
海乃くく 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり
隨道あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり

附に味ありくと 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり
一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり
是乃言あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり
はけりかきり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり
乃く 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり
あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり
ぬく 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり
あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり 一 あり

小振小柑乃人ハありしや平也阿の公枳路に在り
 曰病ありぬむるやア病や路は又あり記論
 よる一々乃何んかよよ一して二るのる乃味との
 ともりぬ者と打也枳路に一任す。予夢夢也乃
 也一戸をいふといふ

甲山岡くわく又あつ病かゆむ日風と付其に
 陰むすくこれい業ととゆかきくけあやい何ん
 けあくと一いハ公は是ハ姨ハ是ハ公とて行ふ

抄抄口及ぬき者乃す〜ぬる子よ〜あ〜た〜た
 善信師のや時余弟はけ〜ハ穢公也まは是左
 立ち至と〜二りぬか人〜扱とらあ〜ぬ〜ハ尺
 の〜ゆかり〜ぬき子のおち〜ハ通す〜ゆき
 餘論〜ぬ〜の〜一ハ可たは防公せ〜つ〜る
 一何んか〜や〜入り〜言〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
 一の迹言に〜ぬき捨中防ぬ〜ぬ〜は言ぬぬ
 多路例す〜一お〜や〜は〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ
 細大も強弱

こゝろをみんかゝるにきやあのかみはあに
及ひきうけしうふらふはきんたしはあま
あはけりしふしあはひしはまのあま
まはひしあはひしあはひしあはひし

かくのこゝろをみんかゝるにきやあのかみはあに
まはひしあはひしあはひしあはひし
あはひしあはひしあはひしあはひし
あはひしあはひしあはひしあはひし
あはひしあはひしあはひしあはひし

きやあのかみはあにきやあのかみはあに
あはひしあはひしあはひしあはひし
あはひしあはひしあはひしあはひし

あはひしあはひしあはひしあはひし

あはひしあはひしあはひしあはひし
あはひしあはひしあはひしあはひし
あはひしあはひしあはひしあはひし
あはひしあはひしあはひしあはひし

寄ぬと云ふ

あぢあぢと云ふ

尾はくさくさ

是はとらふ糸身をまきとらふ上へくすの傷
ちやちやしたのむきと云ふ
けしきと云ふ
と云ふのけしきと云ふ
けしきと云ふ

と柄と云ふ
雲畑と云ふ
けしきと云ふ

あぢあぢと云ふ

けしきと云ふ
あぢあぢと云ふ
けしきと云ふ
あぢあぢと云ふ
けしきと云ふ

そのかきらぶらぶら

りやうらとやうな乃ちあや

のうらうらとやうな乃ちあや
はるやうけやうらとやうな乃ちあや
やうらとやうな乃ちあや
其のなを付しやうらとやうな乃ちあや
こやけやうらとやうな乃ちあや
うらとやうな乃ちあや

角からうらとやうな乃ちあや

けうらとやうな乃ちあや
うらとやうな乃ちあや
うらとやうな乃ちあや

敵の痛うらとやうな乃ちあや

是れはうらとやうな乃ちあや
あやうらとやうな乃ちあや
けうらとやうな乃ちあや

明眼の判をにあらす人いそぎ一席の御供いゆふ
ちんはあしり又同様のたにおろめを別あは
言神一宗匠がゆむせういさる井のふさうは一軸
乃磨りあるる一令一丸の磨り一しり新ら
あつそひらねとせきらち一席らひ鳥とふ
れ差おあつての自れらつそものこた
平午のゆはとそぎ一まに席中の他供いお
彼のそらげうい自己のゆまびあはらるる

げれに日まびむすいふちあふふか吐きさは自
と其日御ぶらち同内の修行いふれ一と
り又他の別をぶるは時いしとち果るゆ
修行のゆはに相違あはれら自己の只
ちい鳥の飛渡いかにせんいふ
杖路に舞うまらそちとらふらふ
よとすくはらふまは只偏うい
尺のゆまらけの流りちすくとぬらん

口初のおまはるはふるも是はたの詞
 ぬれとぬれとぬれとぬれとぬれとぬれと
 されぬちやうにあひみされうくとあひみ
 路の合りもあしうと眠るはよとやに
 うーありぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
 ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
 百部はゆーありぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
 のぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

一ちううーぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
 法家のぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
 巻めにぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
 今宵とぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
 急ぐぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
 ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ
 とぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

月のうきのしあやほほほ

星とまの曲のうき前くうきの一あまのうき
くしやうきらのうき歌はあまのうき又あまの
一あまのうき一あまのうきうきうきうき
うきうきうきうきうきうきうきうき
うきうきうきうきうきうきうきうき
うきうきうきうきうきうきうきうき
うきうきうきうきうきうきうきうき
うきうきうきうきうきうきうきうき
うきうきうきうきうきうきうきうき
うきうきうきうきうきうきうきうき

風やうきうきうきうきうきうき

うきうき

うきうきのうきうきうきうきうき

うきうき

うきうきにうきうきうきうきうき

うきうき

うきうきうきうきうきうきうき

うきうき

うきうきうきのうきうきうきうき

うきうき

うきうきうきうきうきうきうき

うきうき

うきうきうきうきうきうきうき

うきうき

うきうきうきうきうきうきうき

うきうき

其の力も七もくくさの空へ入る
 乃てみやけと仕立ふ小節子
 山園のわけく杉葉もに嫁のそ
 ちか加保や事後たつめ
 糸山を乃あゝるいひあやす
 ちく遊人と一〜〜女子お
 三才くは後鳥重の力も癒〜ゆ
 重たれりしちのうらみ 羨同

山 園 山 園 山 園 山 園

いとく〜〜鉦の団もみあし
 一よあ回つるや女は〜あや
 帆けらに無事あて尺〜十和
 心奪のあ〜音も通坂を越
 探題は村とかゆり松乃を
 大ら乳よきふ人の白糸絆
 お好に木挽もそろり〜〜あ
 種も扇し中〜れあ〜ら

山 園 山 園 山 園 山 園

遠のつらぬとあはれつらぬ
 はあーやううく兵ハちね
 おねにおねあつたのね
 子孫のつらぬはつた
 ままのつらぬはつた
 仮りつらぬはつた
 用帳のつらぬはつた
 ちねのつらぬはつた

園 山 山 山 山 山

他病とつはひあつた人のつらぬ
 あにいたつたつらぬ
 しつらぬのつらぬ
 合款とつはひあつた人のつらぬ
 鬼灯のつらぬ
 子孫のつらぬ
 ままのつらぬ
 仮りのつらぬ
 用帳のつらぬ
 ちねのつらぬ

園 山 山 山 山 山

まげひふこのくしすむ不破の園
大報と巻乃下一埋火
所て右諸殿等に碎くはアヤ
其の者中と有様乃致
和頭の中くみぬれははるま
浮葉ぬちくめらぬく有
けちハもす可いほと明けり
根のくりにちるちあつたは
塔 殿 園 山 塔 山 園

おちと一輪んきくられもせに
能登の勢れあこもる
おほろおを明ると通おの目よ
くぬぬくちの道心
即てやふぬくろくつたて
屏月の海くきりそひく
踏こむくち八田灯籠に面や
那智のくよのぬ里こもる
お 山 塔 殿 園 山 塔 山 園

字向一欲のつく時ありしるい
蟬 一 一 折つ次の居眠
長刀れ才子い草履しうんく壺
たきれく何く一草いぬりぬ
納豆のこやういふの月
里のく赤い牛よやくし
ちよ公ちおとめ教用いふびん
やう仲人のほむ二ハカ

筑 園 山 塔 園 山 筑

白ふよの照けにふ廉もほよあけく
ふよ一きつゝあちしおや
おんくは毎い吹ちる鐘の音
目いつふれおけぬら
ある付と針あふも一草
葉の匠終もせんかのほら
牛頭乃かんちとあ乃をこみき
とあ馬のぬいあふいさきん

園 塔 山 園 筑 山 筑

暑い夕日あふくは草部
 下の夕日あふくは草部
 炊く明を舟の用もさつさ
 ちと捨い子とりやうす
 休きのめく内口もあ 車
 口の氷も解くや天ハ
 一カ家のまじり葉子並用く
 思ふ風もつけられ甲子

山 岡 塔 山 塔 岡 山

涼香にぬれかたさく静く
 ぶあうく目ぬくあす
 傍う飛ぶ不肖く揃りひん
 正白くハありのかあ中
 救越しをさ一陽一川とそ
 くすう箱やし物灯さつ
 夕影も秋鼻にのせくゆ
 あとの紋りとさく下

山 岡 塔 山 塔 岡 山

摺付、隈送う梨と菓ううく
 何二月の友をうう男
 和た師匠の寸紙にけうを
 戸漢かえはすはふのあ
 合次を基礎に早くもの毒
 折れ折の具にけう河海
 法紙よ去り心度お、彩一
 富士の麓をううはめうは
 塔 山 塔 塔 山 塔

向井山は津波れうううう
 鴨とすまき 踏人ううう
 舟をうう米口とやうう
 窓の夕が笑ふやゆいこ
 遊加
 聖とまんとおに貸やふはう月
 山吹やけすまをに濼く紙をうは
 けつるやううはうう物のを
 山 塔 塔 山 塔 塔 山 塔

定ん目のきうふあまのきよき
 葉ハ枝くまはりとまじりての
 草目もほくやくや鏡みど
 しくいこの加りに解ぬお音
 頬のぼくま〜〜おふつけの
 ち〜ややたちく〜たりす時
 き〜あまやちのくおちといふ
 りのちや摘むお蝶につまの

南香
 秋年
 和鳴
 三楚
 冠子
 相系
 清河
 祭奉

ありら〜ふ〜ふ〜今年のお
 草もはいとふまやな乃月
 人き〜く〜く〜つ〜田螺部
 蝶のね〜く〜く〜白牡丹
 たゆさ〜く〜あやふ〜あはら月
 中〜ま〜く〜あま〜あ〜あ
 人中〜あ〜て〜あ〜あ〜あ
 摘ぬよ〜葉の〜ま〜ま〜あ

南香
 秋年
 和鳴
 三楚
 冠子
 相系
 清河
 祭奉

あつくも 萩乃 足らぬりそのもち 石上
 灌仰や 志に 牛もろく 清のちや 可登
 之りか にくく めこそや 萩乃を 丁路
 萩乃の 萩乃の 萩乃の 萩乃の 伊山
 萩一乃 吹くも 萩乃の 萩乃の 雙丸
 多きに さかしく 萩乃の 萩乃の 萩乃
 萩乃の 萩乃の 萩乃の 萩乃の 萩乃

叢桂堂藏版誂書目録

| | | | |
|------------|-------|-------|--------|
| 南北新話 | 前篇 上下 | 涼帝 | 浮葉著 名譽 |
| 伊勢のほめ | 古山 | 雙丸 | 涼帝 |
| 枯野問答 | 左 | 百梅 | 李趙 |
| 百題集 | 左 | 百梅 | 全 |
| いせの女身 | 東武 | 李趙 | 電洞 |
| 物話 餘負 續之足掬 | 涼帝 連中 | | |
| 支那社中 一寸立 | 東武 | 桐原 | |
| 秋 穂家のやう | 左 | 林水 荳里 | |

江都日本橋通壹丁目

梅村宗五郎

二部 萩乃 江風

